

2020年度入学試験問題

国 語

(11月23日)

経営学部 経営学 科(数学・英語のいずれかを選択しても可)
法学部 法律学 科(数学・英語のいずれかを選択しても可)
文学部 人間学 科(数学・英語のいずれかを選択しても可)
教育学部 教育学 科(数学・英語のいずれかを選択しても可)
教育学部 児童教育学 科(数学・英語のいずれかを選択しても可)
看護学部 看護学 科(数学・英語のいずれかを選択しても可)
国際教養学部 国際教養学 科(数学を選択しても可)

開 始 午前10時30分

終 了 午前11時40分

注 意 事 項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は15ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督者の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

① 受験番号欄

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名とフリガナを記入してください。

4. 解答用紙はマーク式と記述式に分かれています。マーク式で

10

 と表示のある問いに対して◎と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の◎にマークしてください。

(例)

10	a	b	◎	d	e
----	---	---	---	---	---

記述式の解答は(国語・記述式)とある解答用紙に記入してください。

5. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。
6. 試験終了後、問題冊子は持ち帰ってください。

一 次の記事を読んで、後の問一〜八に答えなさい。

「あとがき^Aつて、どんなことを書けばいいんだっけ？」いざ書こうとしたのだがどうも気分が乗らなくて、そんなつぶやきが漏れ出た。

過去に書いたものを引っ張り出して、「あとがきつてのは、えっと……『何の話？』と一瞬思わせておいて、でも実は、書の内容に関連があるトピックを書くことを通して、一段抽象化したレベルから書を眺めるって感じか。ふむふむ……」などと、分析してみたりした。

では、一見関係なさそうで実はあるようなトピックは、この書の場合、何だろう？ 脳味噌^{みそ}の中をサーチしてみるが、適当な内容が思いつかない。まだ気分も乗らない。

そして、はたと気づいた。僕はあろうことか、頭で、分析的に、知識主導で「あとがき」を発想しようと目論^{もくろみ}んでいるではないか！ と。

思えば、一冊の書の中で、「はじめに」や「本文」と比べて、「あとがき」のなんと自由なことか。一見関係なさそうで実はあるようなトピックを選ぶということは、本書の重要キーワードの一つである「跳ぶ」こと、そのものではないか。「あとがき」が最もクリエイティブであることを必要とする。I

「跳ぶことは結果であって、どう跳ぶかを頭で考えるのではない。あくまでも身体の発露で跳ぶのだ」と主張しておきながら、その舌の^Xも乾かぬうちに、著者の僕が、分析的に知識主導で書こうとしていたではないか！ 執筆を終えた身体がいままさに何を体感しているか。その体感のままに、気分に合わせてふわっと思いつくことを文字にしてみよう。そう思い直した。II

村上春樹さんの『職業としての小説家』の一節で、彼は、毎日の生活のリズムを大切にしている、と書いている。書けそうか否かの気分にかかわらず、毎日決まった時間に机に向かい、決めた枚数はとにかく書く。日課としてのランニングも欠かさない。食事^アも睡眠もきちんと取る。小説家は身体が資本である、そして、ものを書ける状態に身体を整える努力を怠らないことが、長年小説家として働くためにヒツス^アであると、彼が考えているからだ。III

物語は、^Yで創造するのではなく、身体の発露としてつくりあげる。村上氏が言いたいのはそういうことなのだ^Bと解釈している。本書の文^B言^Bでいうならば、村上氏は「^Zの作家」だ。

物語を書き進めていくうちに登場人物が「自然に動くようになる」、という趣旨のことも書いている。頭で執筆していたのではそうはならない。IV 知り合いの情報デザイナーの先生がよく仰^{おつや}る言葉がふと浮かんだ。「若いときに指導教員から求められたことは、^Bデザイナーのお題一つに、一〇〇枚くらいスケッチせよということだった」らしい。デザイナーのお題なので、まさにクリエイティブを求められる。大量にスケッチを描けば、一つや二つク

リエイティブな案に遭遇する、という「数撃ちや、当たる」的なことでは決してない。

一〇〇枚も描こうとすると、最初のうちは頭で、知識主導で描いていたとしても、じきにコカツする。数をこなすためには、勝手に手が動くモード、つまり身体の発露で描くモードに自ら追い込まざるを得ない。そういうモードを体験させるための、そして、そのモードに自在に入りこむ訓練が重要だと学生に体得させるための、「数（ノルマ）」だったらしい。V

昨今、知識主導、頭でっかちの風潮がはびこっている。インターネットは素晴らしい情報基盤だが、以前なら自分の身体を使って現場に足を運んで、ようやく仕入れることができていた情報が、さっとコンピュータの中で拾うことができる。そのおかげで現代生活がどれほど便利に効率的になったかは、計り知れない。しかし、同時にその陰で、身体を使う労力を惜しまぬこと、自分ごととして体感することへの傾倒や尊重が失われつつあるように思う。

クリエイティブな発想は身体の発露からしか生まれえないという仮説が真だとすると、昨今のこの風潮は世の中からクリエイティブであることを奪うことにもなりかねない。身体を駆使してものに遭遇し、そこで湧き起こる体感に素直に向き合い、身体の発露として発想するという身体性を取り戻したいものだ。

小説家ほどではないが、職業がら、論文、書評、書物など、執筆の機会が多い。前々から気づいていることだが、僕には「筆が進むカフェ」がいくつか存在する。「あとがき」として何を書けばよいか悶々としていた時、そのカフェに行きさえすれば書けるかもしれない、という誘惑に駆られた。その場に身体をうずめればボクの身体は活性化し、「書くモード」に入れるかもしれない。でもそれってかなり打算的だ。やっちゃいけないことなのではないかと取ってその誘惑を断ち切った。

知識主導で「あとがき」を書こうとしていたのだと気づいたとき、その直感はずしかったと胸をなで下ろした。わざわざ自宅から遠いカフェに打算的に足を運ぶなんて、戦略的に書こうとしていることの証だ。やるべきことは、他ならぬ自分が執筆した諸々の内容を思い起こし、執筆時の体感を振り返って、しかと向き合い、もう少しだけ何を書き足したくなるかを、身体に問うてみることだ。それに気づいてからは、そんなモードで書き進むことができている。

既に三つの異なるトピックに触れてきたので、そろそろこの文章を閉じてもよさそうだ。つまるところ、打算や戦略や知識ではクリエイティブな物は為し得ないということなのだ。僕自身も陥ったように、私たちはややもすると、それを志向してしまうのだが。

そうだとすると、日々為し得るのは村上氏が述べるように、「身体を整える」ことしか方法はないのかもしれない。身体を整えるときには知識も頭も戦略も存分に使えばよい。しかし、いざクリエイティブなものを為そうとする瞬間には、頭を解放して身体の発露にユダナる。

本番で身体の発露にユダねるためには、日頃の「身体の整え」がヒツスである。トータルに考えれば、身体の発露にまかせることと、頭で考えることは、共に必要である。肝心なのは、各々を駆使するタイミングをしかと見定めることではないか。

(諏訪正樹『身体が生み出すクリエイティブ』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

問一 傍線部ア、イ、ウの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の選択肢から、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号

は、アが 1、イが 2、ウが 3。

ア ヒツス

- ① キユウスでお茶を入れる
- ② 飾らないスナオな性格
- ③ 周りのヨウスを見る
- ④ 家でルスバンをする
- ⑤ スキヤ造りの家

イ コカツ

- ① カンコの声を上げる
- ② 他人の意向をコリヨする
- ③ 自分の力をゴジする
- ④ カツコたる信念を持つ
- ⑤ エイコ盛衰は世の常だ

ウ ユダねる

- ① この会への参加はニンイである
- ② イサイかまわず会議を進める
- ③ 国民のシンタクにこたえる
- ④ 銀行のヨキンが底をつく
- ⑤ 経済的なフタンが大きい

問二 本文を大きく二つに分けた場合、前半の終わりは、段落末に記したⅠ～Ⅴのどこか、最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、4。

- a I
- b II
- c III
- d IV
- e V

問三 傍線部A「あとがき」について、筆者の考えを説明したものとして最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、5。

- a 本文の話題と関係ないことを述べているようで、最終的には主題にしっかりと結びつくような文章。
- b 自由に創造的な発想を保ちながらも、自身がじっくり考え抜いたことを表現した文章。
- c 執筆を終えた時点で、自分が何を体感しているかを自身の中に探りつつ、思いつくことを書く文章。
- d 自然に「跳ぶ」ことを目指して、執筆中には思いつかなかったようなことを書きつづる文章。
- e クリエイティブな身体が発露として、本文内容を一段抽象化した視点から眺めた文章。

問四 空欄 X に入る言葉として最も適切な言葉を次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、6。

- a 先
- b 上
- c 奥
- d 根
- e 鼓

問五 空欄 Y、 Z に入る言葉の組み合わせとして最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答

番号は、 7。

- (a) Y 身体発動 Z 生活リズム
- (b) Y 職業的 Z 日課として
- (c) Y 打算 Z 努力
- (d) Y 体感 Z 世界クラス
- (e) Y 知識主導 Z 身体性

問六 傍線部B「デザインのお題一つに、一〇〇枚くらいスケッチせよ」という指導教員の課題について、筆者は何を意図したものと考えているか、

最も適切なものを次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、 8。

- (a) クリエイティブな物事をなすとげるには、とにかく多くの作品を描きあげることが大切であることを身をもって知らせるため。
- (b) 多くのデザインを描くことによって、わずかではあるがその中に優れた作品が生まれることを実感させるため。
- (c) 多くの作品を描くことによって、頭でなく身体で描くレベルを体感させ、そのレベルに自由に到達できるようにするため。
- (d) 数(ノルマ)をこなすことによって、デザインの基本的なレベルが確かに向上することを体験させたいため。
- (e) 無理と思われる数のデザインを生み出すのは、若いときにしかできないことであるから、なるべく多くの作品を描かせるため。

問七 傍線部C「三つの異なるトピック」を、それぞれ一〇字程度で記しなさい。解答番号は、 I。

問八 クリエイティブな物事をなすために、筆者が提案していることを、二つの側面から「〜ことと、〜こと。」という文章形式でまとめなさい。

全体で四〇字程度(句読点も一字と数える)。解答番号は、 II。

次の文章を読んで、後の問一〜七に答えなさい。

改めて「家」^Aである。今では「家」というと「建物の家」になって、「結婚をする」ということは新しく一家を立てることである」というのを、「結婚したからマイホーム探さなきゃ」くらいのことだと思ってしまうが、「結婚をすることは新たな一家を立てることである」というのは、いまだに伝統的に続いてもいる。それがなにかと言えは、結婚した二人が婚姻届を公的機関に提出すれば、自動的にその二人だけの新しい戸籍が作られるということである。

新しい戸籍が作られる時には、誰を戸主とするかということが考えられる。その戸籍の代表者で、新しい戸籍の姓はその戸主の姓によって決定される。意外と下らない問題だが、「夫婦別姓」ということが制度的に日本で容認されにくいのは、夫婦が新しく入る戸籍に「姓は二つ」という選択肢がないからなのだ。法人には「共同代表」という「二人で一緒」の制度はあるが、夫婦にそれはない。「なんであんたが家の代表なの？」「なんでお前が俺達の代表なんだよ？」という争いはそうそう顕在化しないが、「二人で作るシステムの代表が一人でなければならぬ」というのが、最早時代^{モハヤ}サ^アクゴ的になっているのだ。家父長制というのは、「家」というものを代表するのはただ一人、男のみである」という考え方、あるいは伝統的なあり方から出ている。

「家の長」である家長に絶対の権力を宿らせたのは、家長にそれだけの力を与えなければ「家」というものが維持出来ないし、維持しにくくなるという一面があったからかもしれない。「一人の人間に権力が集中してそれが固定化されれば、ろくなことにはならない」ということの一つの例が、家長に絶対権力を与える家父長制というもので、このあり方は当然、「一つの国に一人の国王」という王国のあり方とシンクロしている。

意外かもしれないが、近代というものは王政の崩壊によって訪れる。なぜかと言えは、政治が一人の権力者に集結してしまう体制下で、民主主義は起こらないから。

たとえば、第一次世界大戦はヨーロッパ各国の王様達が争って、その結果、王様達が力を失いなくなってしまった戦争だった。フランスは既に共和制になって、王様がいなかった。イギリスはそのずっと以前から、王様のあり方が「君臨すれども統治せず」に変わっていた。そして、この国々と戦ったドイツ、オーストリア、ロシアの帝国からは、皇帝がいなくなった。ロシアでは第一次世界大戦中だが、フランス革命の時のように皇帝一家は処刑された。そのように第一次世界大戦は王様（皇帝）がいたヨーロッパ最後の戦争だった。

王様（皇帝）が統治の現場からいなくなって、やっと民主主義の近代国家が生まれる。X、高度にして難解な観念哲学を生んだドイツでは、国民のレベルがまだそこまで達していなかったので、ヒトラー^イ総統というギジ皇帝を生んだ。一度終わった帝政だが、もう一度第二次世界大戦で

敗北するまで、「一人の人間に国を預ける」という伝統的習慣は崩れなかった。

日本の場合もっと分かりやすい。江戸時代が終わると新しい時代の形式上の統治者として天皇を引つ張り出し、これを大時代^Bなまでに神格化した。まだヨーロッパ各国に王様がいた帝国主義の時代だから、時代の気分として神格化も仕方がないかもしれないが、統治者としての天皇の神格化、絶対化と共に、それまでであった一般の家のあり方にも介入して、家長を絶対化する家長制度を作った。このことによって、日本の男のあり方は、江戸時代よりも後ろ向きになった。それまでは「なんでもないただのオヤジ」だった男に家長という無駄な権力を与えたので、妻や娘達は江戸時代よりひどい苦痛を味わうようになった。「民主主義」という理由だけで愚者にも発言の自由を与えてしまうと、言論が荒れるというのと同じ現象^Cだ。

神がかりで理性のブレーキが利かなくなった日本は、やがて軍国主義化して日中戦争、太平洋戦争と深入りして敗北し、天皇は自身の神格性を否定して政治の現場を去り、民法も改正されて家父長制度も消えた。大日本帝国時代の一般家庭は、それぞれが「小さな大日本帝国」で、大日本帝国が消滅した時、日本の一般家庭もただの「家庭」に戻った。

江戸時代が終わって明治になり「日本の近代が始まった」などと言われたりするが、日本^Dの明治はまだ「前近代」、大日本帝国が消滅した後にならなければ、日本に近代は訪れない。

明治維新から太平洋戦争終結まで七十七年ある。「まだ近代ではない」その期間を「もう近代だ」と思い込んでいた結果、一九四五年以後の日本の近代にはいろいろな歪み^Eや思い違いが多い。ただそれだけの話だが。

(橋本治『父権制の崩壊 あるいは指導者はもう来ない』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の選択肢から、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

アが 9、イが 10。

- ア サクゴ
- Ⓐ サツコンの国際情勢
 - Ⓑ 労働者をサクシユする
 - Ⓒ ほめられたとサツカクする
 - Ⓓ タンザクに願いを書く
 - Ⓔ 乗っ取りをカクサクする

- イ ギジ
- Ⓐ モギ実験を行う
 - Ⓑ パスポートをギゾウする
 - Ⓒ 消費者のベンギをはかる
 - Ⓓ サギ師を捕まえる
 - Ⓔ 国会ギインを召集する

(補足)
「ギジ」の「ギ」を筆者は「擬」と書いている。

問二 傍線部A「家」とあるが、ここで筆者はどのような意味で用いているか。最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、11。

- Ⓐ 家族が生活を共にする小さな集団である家庭
- Ⓑ 家族が住む建物としての家
- Ⓒ 戸籍を基盤とした制度としての家
- Ⓓ 男女が夫婦になり家庭を築く結婚というシステム
- Ⓔ 一家の長として家を統率し支配する立場にある戸主という存在

問三 空欄 X に入る最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、12。

- Ⓐ 例えば
- Ⓑ しかるに
- Ⓒ すなわち
- Ⓓ それゆえに
- Ⓔ そして

問四 傍線部B「大時代」の意味として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、13。

- Ⓐ 過去の時代のこと
- Ⓑ その時代を反映すること
- Ⓒ 絶対的であること
- Ⓓ おおげさであること
- Ⓔ 最大級であること

問五 傍線部C「同じ現象だ」とあるが、何と何が、どういう点で同じなのか。それを説明したものとして、最も適切なものを、次の選択肢から一つ

選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、14。

- Ⓐ 明治時代と現代の「男のあり方」は、どちらも自由が大きいため人を傷つけたり言論を荒らしたりするという点で同じである。
- Ⓑ 帝国主義における王様と民主主義における考えの足りない人は、やりたい放題、言いたい放題であるという点で同じである。
- Ⓒ 家父長制における絶対化と現代における自由化は、普通の人を神がかりな状態に変えてしまうという点で同じである。
- Ⓓ 前近代的な明治時代と民主主義的な現代は、社会の変動が激しく荒れる時代であるという点で同じである。
- Ⓔ 家父長制における家長と民主主義における無責任な人は、権力や権利を適切に使えないという点で同じである。

問六 傍線部D「日本の明治はまだ「前近代」、大日本帝国が消滅した後にならなければ、日本に近代は訪れない。」と筆者が考える理由は何か、

五〇字以内で述べなさい(句読点も一字と数える)。解答欄は、Ⅲ。

問七 傍線部E「いろいろな歪みや思い違い」の一つとして筆者が考えていることは何か。最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記

号をマークしなさい。解答番号は、15。

- Ⓐ 家父長制が続いていること
- Ⓑ 民主主義の定義
- Ⓒ 戸主が一人であること
- Ⓓ 近代化の捉え方
- Ⓔ 夫婦別姓

次の文章を読んで、後の問一〜八に答えなさい。

光一郎の後ろ姿はすぐにわかった。大学を卒業して五年になるのに、ジーンズとTシャツという格好も、無造作に切り揃えられた髪の毛も、まるで学生だ。ベンチがぁいてゐるのに、わざわざ柵に腰かけてゐるところもすごく光一郎らしい。柵が低すぎて猫背になつてゐる。

「よーお、御無沙汰、御無沙汰」

大きな声がして、視線を移動させるまでもなくかんちゃんが現れた。光一郎の目が、まるい縁なし眼鏡の奥でなつかしそくに弛む。私は立ちどまり、しばらくそこから二人を眺めた。すっかり遠くなつてしまつた学生時代の、ずいふんと元氣な亡霊たち。海はどんよりと静かに横たわり、水平線で灰色の空にとけこんでゐる。

「男のくせによく喋るな。朝から天ぶらを食べてきたのか」

近づいて言ふと彼らは同時にふり返り、停泊してゐる船を背景に、満面の笑顔をうかべた。限られた相手にだけみせる類の、無防備な笑顔だ。お洒落とは言いかねる紺のスーツに水色のネクタイをした、大柄なかんちゃんが生真面目な声をだす。

「すみません、先生。実家が天ぶら屋なもので」

私たちは陽気に笑つて再会の握手をした。朝から天ぶらを食べてきたのか、は、論理学概論の担当教授が授業中に好んで使つた言いまわしだ。はじめて聞いたとき、それがどういふ意味の冗談なのか誰にもわからず、教室中がしんとしてしまつた。チョークを片手に、教授は教壇の上できまり悪そうにしてゐた。私たち三人が出会つたクラスだ。

「おっと。規則違反ね。ごめんなさい」

思い出話なら、アラビアンナイトが書けそうなくらいある。ただし、思い出話をしないというのが、私たちの唯一絶対的な規則なのだ。学生時代の仲間が集つて懐古的になつたんじゃ進歩がない、というのがかんちゃんの意見だつたし、そういうのは氣恥ずかしい、と光一郎は思つてゐた。少なくとも私たちは、荷物が軽い方が生きやすいたちなのだし、それはそのまま、学生時代を誇りに反芻して滔々と語る世代への、ささやかな抵抗でも、たぶんあつた。

「日曜日でもスーツなのね」

おう、と言つてかんちゃんは胸をはる。

「かたい仕事してるのは俺だけだからな」

「どうせ俺たちはイカです」

光一朗が立ち上がり、手足をくやくにやさせてみせたので、横で私も真似まねをした。

「どうせ私はクラゲです」

三人で、再び笑った。三十になんなんとする人間たちが、よくこうも子供じみたことをして笑えるものだ、とお互いに半ば感心しながら、それでもどんだん気持ちが悪くなるのを、^Dどうすることもできなかった。ごく控え目に海の匂いにする。

かんちゃんが予約していた店は、中華街から少し離れたところにあった。坂の上の、見晴らしのいい場所にはあったが、貧相だった。古ぼけた看板の、もとはさぞ派手だったのであろう色あいてもクウキョアだ。入口を入るとす暗く、脂臭い空気は湿気よでぬれている。色の黒い、小柄な中年の奥さんが、個室に案内してくれた。存外奥行きのある店だ。

「とりあえずビールね」

(注1)

かんちゃんが言う。チンタオがいいや。それから前菜。あとはゆっくり決めるからさ。奥さんはにこりともせずにつつ立ってメモをとる。白い三角巾とくたびれたエプロン、靴下をはいた足元。中華料理屋の個室というのは大人数用ばかりかと思っていたが、小さな円卓は四、五人用で、四方の壁もせまっている。無数についた壁のしみを眺めながら、ここはきつとゴキブリの楽園だろうな、と思った。

「道子、仕事はどう、順調」

おしほりで丁寧に手をふきながら、光一朗が訊きいた。

「ん。あいかわらず、すごくいいって言ってくれる人もいるし、こんなの焚たきつけにもなりませんよって言う人もいる」

「焚たきつけえ？」

横からかんちゃんがすつとんきような声をだす。

「何時代の奴だよ、そいつ」

実際、編集者と呼ばれる人たちは奇妙だ。いつも新しい物を探しているけれどすごく保守的で、優しいけれどみんなどこか年齢フシイョウで得体がしれない。

「道子でも気にするの、そういうこと言われると」

悪意のない笑顔で光一朗は訊きき、私は答に窮してコップの水を飲む。

^E「光一朗こそどうなの、新しい仕事」

バーテンだの家庭教師だの、アルバイターと称して気楽にやっていた光一朗が突然就職を決めたのは、二カ月くらい前だ。小さなペットショップで丁稚奉公しています、という葉書きをもらって電話をすると、光一朗はいつもの穏やかな声で、チンチラの子供、どう、と言った。買ってくれたら、僕が出張サービスでシャンプーしてあげるよ。

「日々是決戦」

光一朗はにこやかに言って、傷だらけの両手をテーブルの上でひろげた。

「当然、実社会は厳しいんだよ、諸君」

かんちゃん嬉しそうに言いながら、ちようど運ばれてきたビールをつぐ。

「ともかく乾杯だな。光一朗の就職と、我々の再会に」

「優秀なる保険外交員と、^F気鋭の新進作家の前途にも」

光一朗がつけたし、私たちは喉を鳴らしてビールを飲んだ。小さなコップだったので、^{もちろ}勿論一息に飲み干した。とても軽くて香ばしい。

(江國香織「放物線」による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

(注) 1 チンタオ——中国で製造されているビールのブランド名。

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の選択肢から、それぞれ一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

アが 16、イが 17。

- | | |
|--|--|
| <p>ア クウキヨ</p> <p>① ジュウキヨを移す</p> <p>② 防災活動のキヨテン</p> <p>③ エベレスト登頂のソウキヨ</p> <p>④ キヨギを暴く</p> <p>⑤ 要求をキヨヒする</p> | <p>イ フシヨウ</p> <p>① シヨウサイな報告を受ける</p> <p>② シヨウゾウ画を飾る</p> <p>③ シヨウダクを得る</p> <p>④ 新幹線のシャシヨウになる</p> <p>⑤ ベンシヨウ金を支払う</p> |
|--|--|

問二 傍線部A「私は立ちどまり、しばらくそこから二人を眺めた」とあるが、そのときの私の心情を、三〇字以内で説明しなさい（句読点も一字と数える）。解答欄は、

IV

。

問三 傍線部B「限られた相手」とはどのような相手のことか。その説明として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

18

。

- (a) 同じ大学に通っていた同級生
- (b) 自分が好意を抱いている異性
- (c) 同じ趣味をもつ仲間
- (d) 気心の知れた友人
- (e) 初対面に近い間柄の知人

問四 傍線部C「規則」が指す内容として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

19

。

- (a) 過去を反芻^{はんすう}する大人には抵抗しなければならない。
- (b) 学生時代のエピソードは三人で共有しなければならない。
- (c) 大学で使われていた言い回しを学外で用いてはならない。
- (d) 友人と再会してすぐに思い出話をしてはならない。
- (e) 皆で集まった際に過去を懐かしんではならない。

問五 傍線部D「どうすることもできなかった」とあるが、ここでの私の心情として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号を

マークしなさい。解答番号は、20。

- Ⓐ 再会を望んでいなかったものの、友人とのやりとりは思いのほか楽しく、有意義な時間であると感じている。
- Ⓑ 日常とは異なる環境にあって、昔に戻ったような感覚を得ることができ、友人と過ごす時間を楽しく感じている。
- Ⓒ 休日に久しぶりに外出ができた喜びを感じ、このあとの予定にわくわくしている。
- Ⓓ 仕事の悩みを抱えていたため、相談できる相手が見つかったことを喜んでいる。
- Ⓔ 懐かしい横浜の街での食事会であるため、気持ちが高揚していくのを止められずにいる。

問六 傍線部E「光一朗こそどうなの、新しい仕事」と尋ねたときの私の心情を説明したものととして最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解

答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、21。

- Ⓐ 光一朗の自己中心的な態度に嫌気がさし、話題を変えようとしている。
- Ⓑ 光一朗の無神経な発言にあきれ返り、思わず問い返してしまっている。
- Ⓒ 光一朗の問いに応じることができず、その場をやり過ごそうとしている。
- Ⓓ 光一朗の生活を心配していたので、話が聞ける時機がきたことを喜んでいる。
- Ⓔ 光一朗の仕事に興味があったため、子細について尋ねようとしている。

問七 傍線部F「気鋭」の意味として最も適切なものを、次の選択肢から一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、22。

- Ⓐ 感情が高ぶっている
- Ⓑ 自尊心が高い
- Ⓒ 意欲に溢あふれている
- Ⓓ 気が大きくなっている
- Ⓔ 出世が約束されている

問八 本文を二つの場面に分ける場合、前半の最後はどこになるか。最後の五文字（句読点及び記号も一字と数える）を記しなさい。解答欄は、

V。